

## 「対人関係に関すること」

### 13 活動名「なべなべそこぬけ」をしよう」

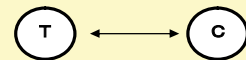
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

人の動きに合わせて行動することが難しいため、二人で、体を動かす活動を行う。

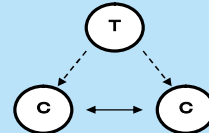
#### この授業で学習させたい目標

- 友達の動きを感じながら、自分の動きを合わせたり、相手の動きをリードしたりする。
- 友達を誘ったり、誘いに快く応じたりする。

#### 指導形態—I (基本の学習形態)



#### 指導形態—III (発展形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①一緒に活動する友達を選び、その友達を誘う。誘われたら、応じる。	・友達を選ぶときは、写真カードを使い、選ぶようにする。 ・教師は、手を差し伸べたり、声をかけたりして友達を誘うよう支援する。
②歌に合わせて、友達と手をつないで、「なべなべそこぬけ」をする。	・教師は、二人の横に立ち、友達の動きを意識して、動きを合わせられるように支援する。
③終わったら、相手と握手する。誘われた児童が、今度は誘う番になり、一緒に活動する友達を選ぶ。	・終わったら、相手を見て握手するように支援する。

#### 社会性の学習の視点

周りに人に合わせた行動



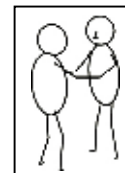
二人で向き合って両手をつないで左右に振る。



同じように、つないだ手の輪の中に頭を入れていき、元のように正面で向き合う。



背中合わせて両手をつないだまま、左右に振る。



片手を上げ、片手は下げ、頭からつないだ手の輪の中に入れていき、向かい合わせになる。

#### <授業の成果>

友達の動きを感じ取り、自分の動きをコントロールしながら、友達との活動を楽しむことができてきた。また、同世代の友達との活動ができるようになるための基礎ができてきた。

## 「対人関係に関すること」

### 14 活動名「「教えてください」と言おう」

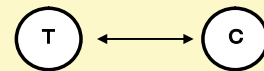
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

学習中や作業中に、困った状況になっても、教師を助けを求めることができないため、正しい対応を教える。

#### この授業で学習させたい目標

○困ったときに、「教えてください」と言える。

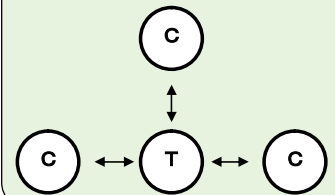
#### 指導形態—I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①教師の示したカードについて、答える。	・児童が答えられるカード 12 枚と知らないカード 3 枚を用意する。
②「教えてください」と言う。	・15 枚のカードを順番に、一枚ずつ児童の前に出して「これは、なに」と答えを促す。 ・児童が知らないカードの場合児童が「教えてください」と言えたら「よく言えたね」と褒め、正しい答えを教える。 ・児童が何も言わなかったり、間違っことを答えたりしたら、「教えてください」と模倣させ、正しい答えを教える。

#### 指導形態—II (発展形態)



#### 社会性の学習の視点

他の人や状況の理解と行動

#### <授業の成果>

指導の当初は、間違っことを答えていたが、徐々に、「教えてください」が言えるようになった。日常生活の場面では、困ったことがあると「教えてください」が言えた。

# 「対人関係に関すること」

## 15 活動名「電車ごっこをしよう」

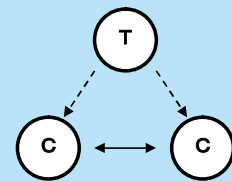
### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

活動は楽しめるが、友達同士でのやりとりは成立しにくいいため、順番のあるゲームでやり取りを教える。

### この授業で学習させたい目標

- 友達と協力して活動できる。
- 友達を意識し、楽しく活動できる。
- 言葉やAACで、相手に伝えられる。

### 指導形態—Ⅲ (発展形態)



### <主な活動>

児童の学習	支援
※ベンチ、机を移動、コーン、台車を準備する。(線路を作る) ①お客さん役になった児童が、運転手役の教員や児童に引っ張ってもらい、2周する。 ②出発するときには、運転手が「いいかい？」お客役が「いいよ」というやり取りをして、出発する。 ③到着したらお客役の児童は運転手に「ありがとう」と言う。	・(運転手役) 相手に準備ができたかどうかを確認するために声をかけるように支援する。 ・(お客役) 声かけに対して応えるように支援する。 ※言葉の苦手な児童の場合は、AAC (ここでは、やり取りの言葉が書いてあるカード) を活用する。

### 社会性の学習の視点 他の人や状況の理解と行動



※AAC : 拡大・代替コミュニケーション (Augmentative and Alternative Communication)



### <授業の成果>

日常の活動の中で、友達を意識し、一緒に活動できる場面が多く見られた。  
友達同士で、言葉で伝え合おうとする場面が見られるようになった。

## 「対人関係に関すること」

### 16 活動名「フラフープくぐりをしよう」

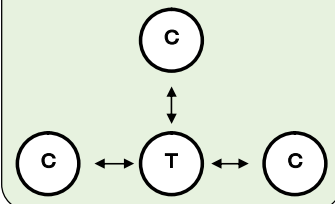
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

相手の顔を見ず、言葉が先行してしまうなどの一方的なやりとりが多い児童を中心に、役割のある活動を指導する。

#### この授業で学習させたい目標

- 一方的なやりとりとせず、相手の反応を待って行動する。
- 2つの役割を理解し、友達と協力することで成功する経験を積む。

#### 指導形態—II (発展形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①一緒に活動する友達を選び、その友達を誘う。 ②誘われたら応じる。	・ 友達の肩をたたき、名前を呼んで注目を集めるようにする。
③スタート位置まで移動する。	
④友達と挨拶をする。	
⑤友達が床に置いたフープの中を通り、ゴールまで進む。	・ 友達の動きに注目し、友達の動きに合わせて自分の動きを調整できるように、言葉かけや身体援助を行う。
⑥友達二人が持つフープの中をくぐり、ゴールまで進む。	・ ゴールまで、意識を持続して協力しあうように、言葉かけを行う。

#### 社会性の学習の視点

他の人や状況の理解と行動



#### <授業の成果>

友達の動きに注目し、相手に合わせて自分の動きを徐々に調整できるようになってきた。  
友達と活動する楽しみを知り、友達との関わりに期待感を高めている児童が出てきた。

## 「対人関係に関すること」

### 17 活動名「ふたりですすもう」

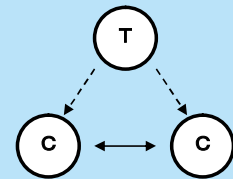
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

友達への関わりが一方的で、相手の動きに合わせて調整することが、難しいため、友達同士の関わりでの指導を行う。

#### この授業で学習させたい目標

○自己と他者の意図を共有して一緒に活動できる。

#### 指導形態—Ⅲ (発展形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①二人で棒を持つ。	<ul style="list-style-type: none"><li>棒を持ち続け、姿勢を換えながら進むようにさせる。</li><li>隙間から友達の動きを見るように促す。</li><li>友達が持ちやすいように棒の角度を変えたり、動かさずに待ったりするようにさせる。</li></ul> <p>友達と合わせて行動できなければ・・・</p> <ol style="list-style-type: none"><li>○○さんと呼びかけ</li><li>1の支援に加えて「持って」「見て」「ゆっくり」といった言語指示</li><li>2の支援に加えて相手に注意が向くように指さし</li><li>3の支援に加えて教師とペアになり、教師のモデルを見せる</li><li>4の支援に加えて教師と一緒に棒を持ち、正しい行動を直接的に支援する。</li></ol> <p>※すべての支援について5秒程度待っても、行為として現れない場合は、次の支援を行う。できるようになってきたら、徐々に支援を減らし、自発できるように促す。</p>
②ボードをはさんで立ち、棒をスタート位置に通す。	
③腕を挙げる、しゃがむなどボードに合わせて、友達と一緒に身体を動かして棒を進める。	
④棒をゴールの筒に入れて、友達とハイタッチをする。	

#### 社会性の学習の視点

周りの人に合わせた行動



#### <授業の成果>

相手がスタート位置に刺した棒を良く見て、受け取ることができる児童が増えた。ボードを進んでいる間、相手の動きを見てペースを合わせて棒を動かす児童が増えた。棒から手を離す児童が減った。

## 「対人関係に関すること」

### 18 活動名「ともだちおいで」

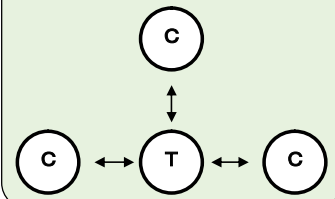
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

言葉はあるが友達を意識することが難しく、友達の名前を呼ぶことは少ないので、練習を行う。

#### この授業で学習させたい目標

- 身近な大人や友達の存在を意識し、遊びや活動、物を介して関わる。
- 遊びの中で、要求の仕方、順番、交代等のルールを知り、教師や友達と一緒に活動する。

#### 指導形態—II (発展形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①名前を呼ばれたら前に出る。	・「ともだちおいで」をすることを告げ期待を持たせる。呼名をする。
②一緒にやりたい友達や教師の名前を呼んだり、顔写真カードで相手を選択したりする。	・「だれとやりたいですか」と聞く。
③相手に向かっておじぎをする。	・合図をしてタイミングを示す。その時に相手を見るようにサインでガイドする。
④「ともだちおいで」の曲に合わせて、身体活動(かかと上げ・足踏み・肩をたたく等)を行う。相手を意識し、歌に合わせて簡単な動作をする。	・児童が相手と同調できるように歌の早さや強弱を調整する。
⑤相手に向かっておじぎをする。	・相手に注意を向けるように促し、できたらサインで強化する。

#### 社会性の学習の視点

周りの人に合わせた行動



#### <授業の成果>

多くの児童がどの組み合わせでも歌に合わせた動作(かかと上げ・足踏み・肩をたたく等)が行えるようになった。特定の教員や友達の誘導が必要な児童も、手をつないで回ったり足踏みの動作をしたりするようになった。呼名への応答、始まりや終わりのおじぎが上手になった。